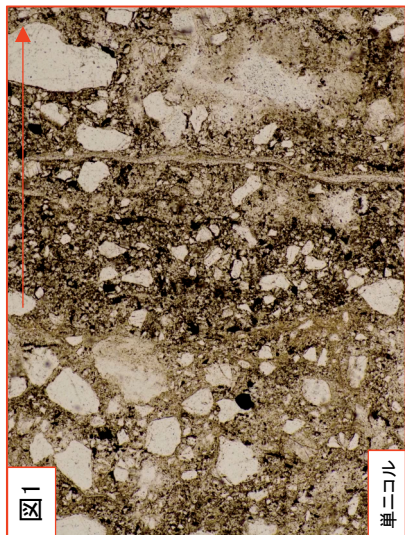
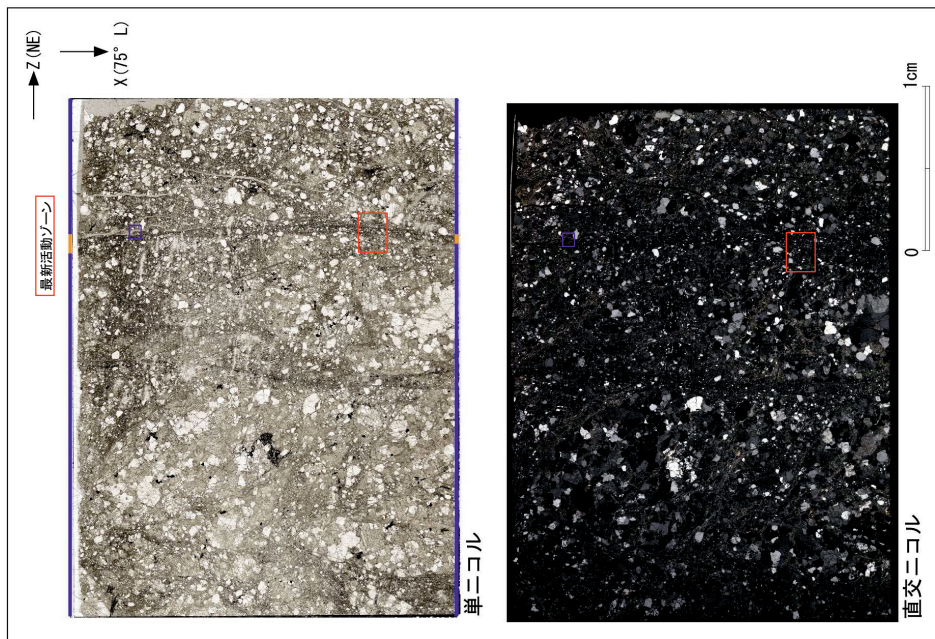
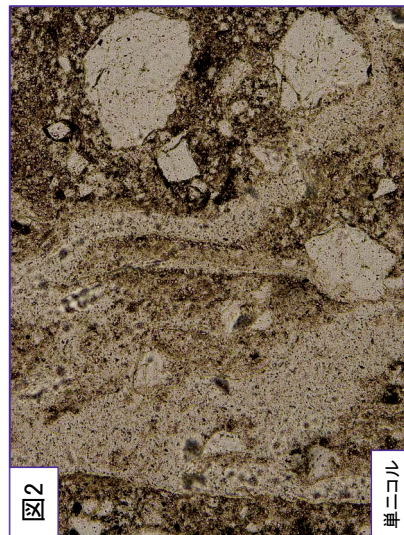
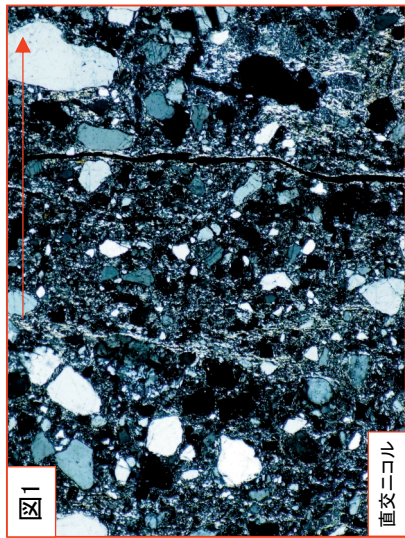


・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 岩片は少ない。(図2)
- 岩片量は漸移的に変化する。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図2)



赤矢印：岩片量が漸移的に増加する



凡例
断層ガウジ
カタクレーサイト

第7.4.4.257図 (5)

破碎部性状 H24-D1-1 深度90.26~90.84m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/2))

(肉眼観察結果 深度90.66m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 岩片は少ない。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 角ばった岩片が多い。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに折り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

| | | |
|-------------------|---------------------------|------------------------|
| 断層ガウジ・ 断層角礫の有無 | 断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] * | 明瞭なせん断構造・ 変形構造 * |
| 有 | 0.2 | 有 |

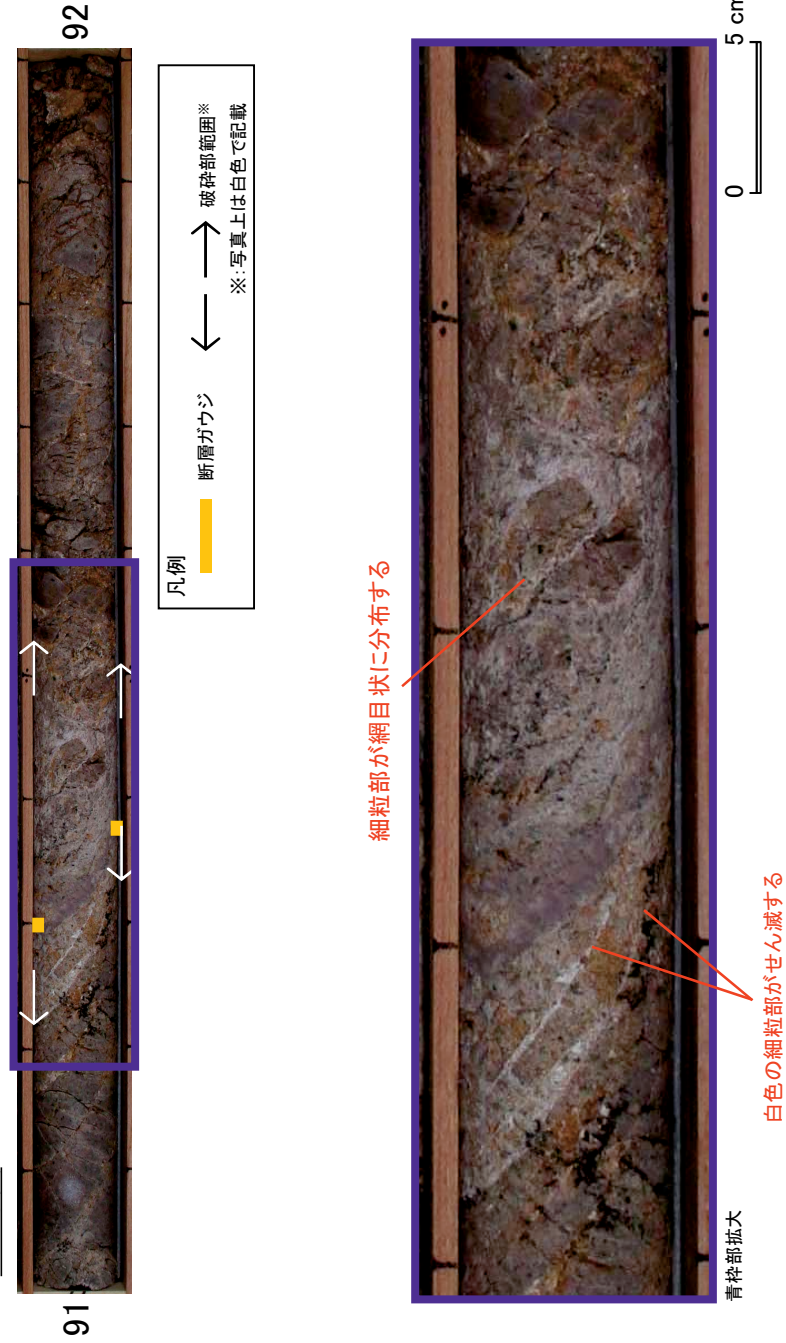
*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度91.26～91.31mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、挟在する白色の細粒部は途中でせん滅し、連続性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。
- ・深度91.31～91.33mの「礫混じり粘土状」と記載の箇所については、粘土の境界面は凹凸があり、直線性に乏しいが、粘土は軟質で連続しており、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。
- ・深度91.33～91.52mの「粘土混じり(一部粘土質)岩片状」と記載の箇所については、やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●91.26～91.52m：破砕部
 91.26～91.31m：粘土混じり礫状部 (Hj)
 上端60°で直線的にシャープに、下端63°で湾曲して連続。径1～3mmの石英、径5～10mmの花崗斑岩の粘土化岩片からなり、幅1mmの白色粘土脈を挟む。やや軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅20～40mm。
 91.31～91.33m：礫混じり粘土状部 (Hc-2)
 上端63°で湾曲し、下端63°で波打って連続。径1～2mmの石英粒と径5～20mmの粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。赤灰色を呈する。幅8～15mmと膨縮する。
 91.33～91.52m：粘土混じり(一部粘土質)岩片状部 (Hj)
 上端63°で波打ち、下端30°で不明瞭に連続。粘土化した、または硬質な径5～15mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間には白～灰赤色軟質粘土が分布する。にぶい黄橙～明赤灰色を呈する。

コア写真



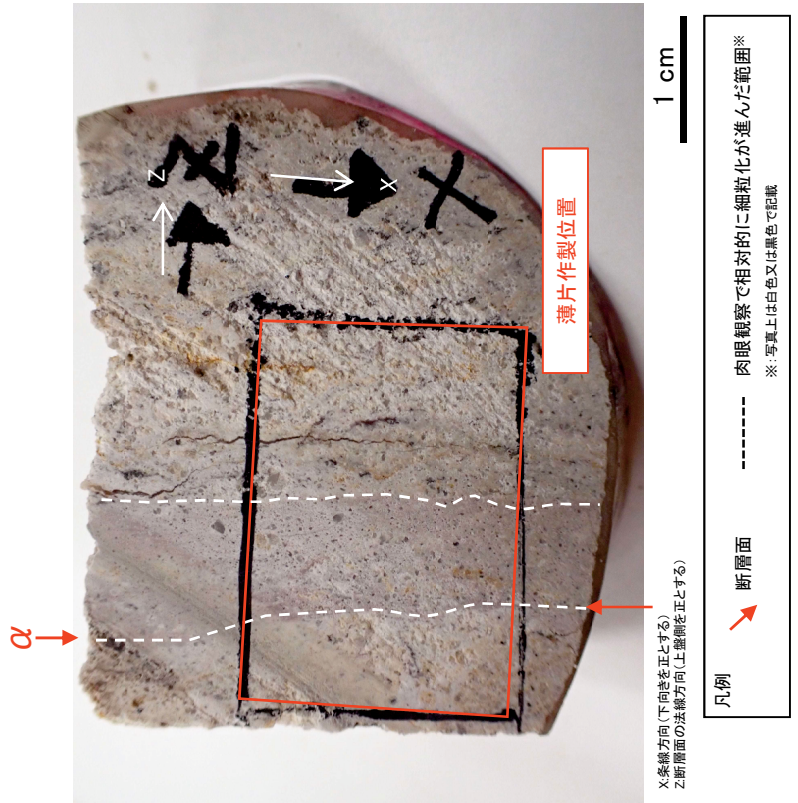
・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

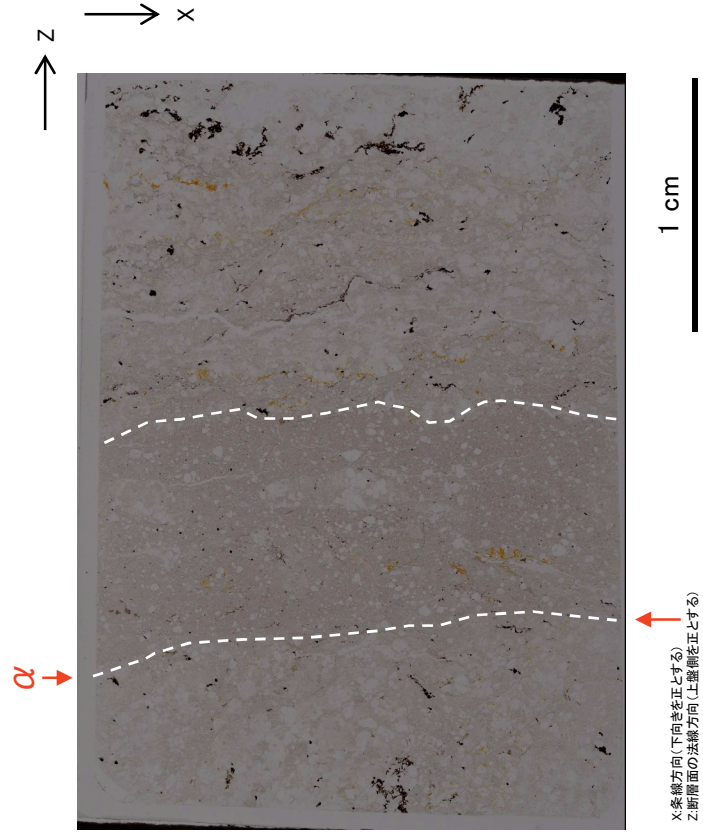
※断層面 α は最新活動面



薄片作製位置写真

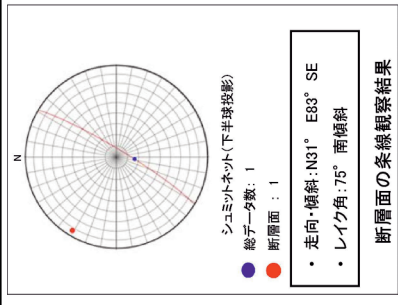


薄片全景写真(単ニコル)

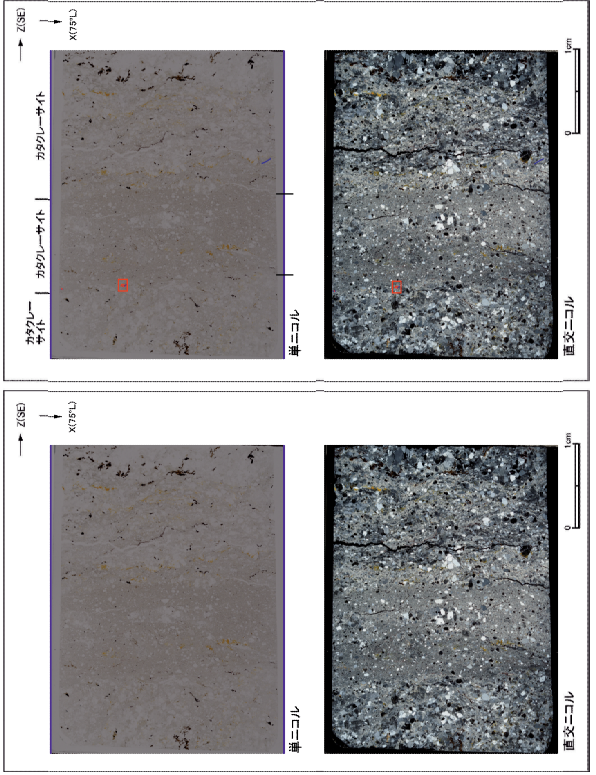
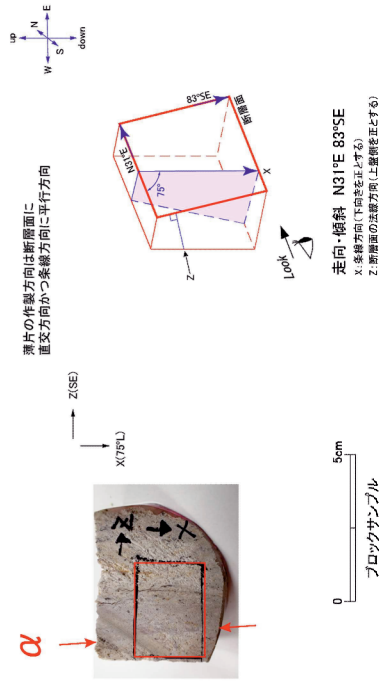


・H24-D1-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 断層面に沿った帯状の粘土状の粘土状態は連続しない。
- (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。

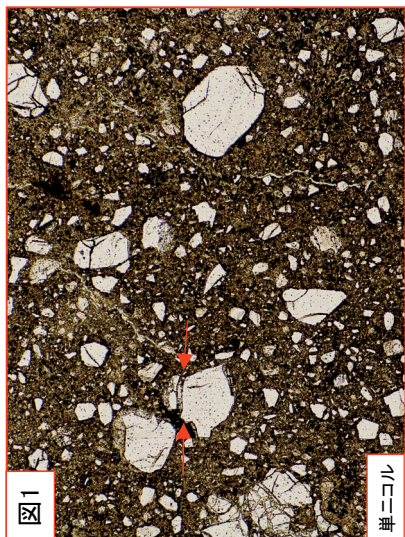
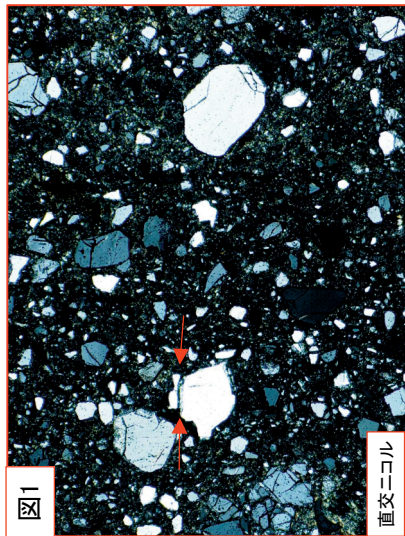


※断層面 α は最新活動面

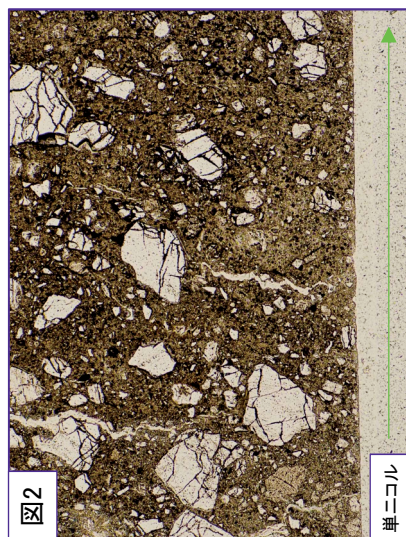
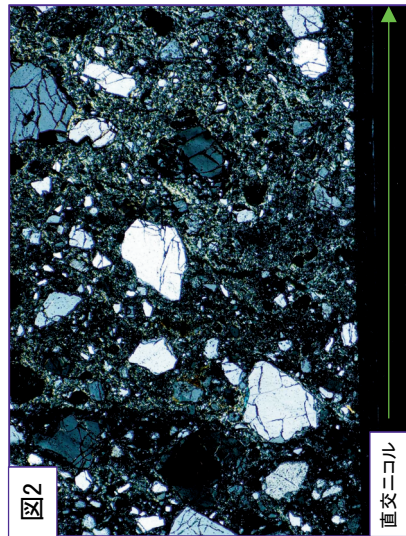


第7.4.4.258図 (3) 破砕部性状 H24-D1-1 深度91.26~91.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/4))

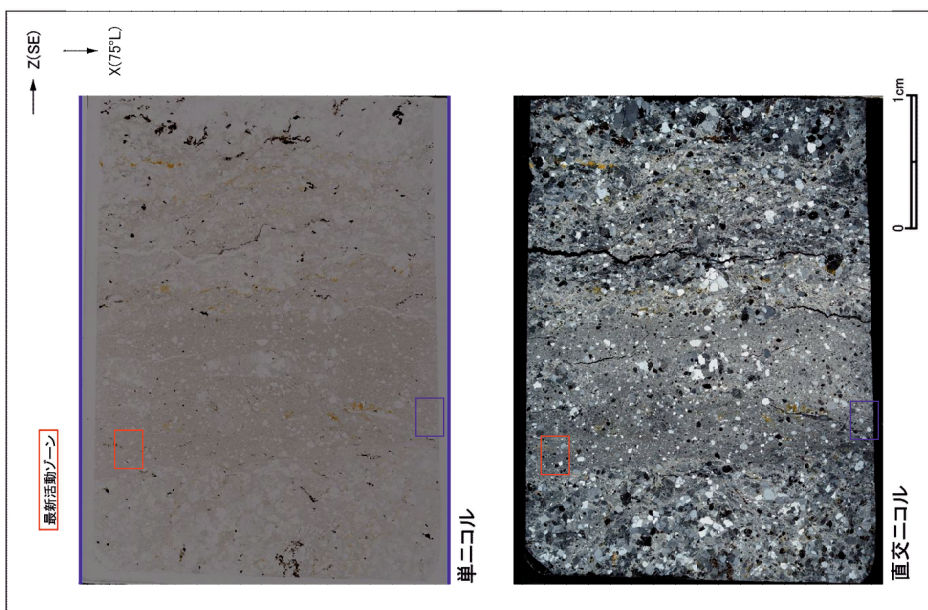
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 組織は漸移的に変化する。(図2)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図1)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



緑矢印：粘土鉱物が漸移的に増加する



第7.4.4.258図 (4)

破碎部性状 H24-D1-1 深度91.26~91.52m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/4))